



熊本市立 大江小学校

# ときめき

2024.5.22 (水)

No. 32

文責  
松永

## 六年生「防災」についての出前授業がありました①

校区を流れている白川…昭和28年6月26日に起こった白川大水害から71年目を迎えますが、この災害で家屋の流出や422人の死者・行方不明者が出るなど、被害が大きかったことを知っている子どもたちは少なかったようです。大江小は今年度創立150周年を記念する一年ということで、6年生は総合的な学習の時間で、校区について見つめ直す活動を展開することになっています。その一環として、大江校区の防災連絡会と国土交通省 熊本河川国道事務所のご協力で、今回の出前授業「白川について ～防災と流域治水～」が実現しました。5月21日(火)の午後、会場となった体育館には、複数のマスコミも参加されました。



はじめに、国土交通省の担当の方から、白川のことや特徴と被害の大きかった平成24年の九州部豪雨と昭和28年の白川大水害についての話がありました。日頃は景観もよく穏やかな白川ですが、阿蘇で降った雨の量によって、約2時間程で水量が上がることを写真などを示しながら説明されました。白川大水害では、流れてきた材木等が子飼橋をせき止めたことで川の水が押し寄せたこと、さらには濁流と一緒に流されてきた火山灰(ヨナ)が水が引いたあとでも積もったまま残り片付けが大変だったことも話されました。ここで、大江校区防災連絡会でもお世話いただいています田尻さんからの話を聞きました。当時、3年生だった田尻さんは、夏場は白川で楽しく遊んでいたそうです。6月28日、例年の5倍近い大雨が阿蘇に降ったことでお昼前に下校して家にいたところ、夕方になり玄関に水がせまっていたことに気づき、避難所である大江小に避難を始めたそうです。お父さんは避難の手伝いに出られていたので、弟を背負ったお母さんと3人で慌てて家を飛び出た…でも、その途中でお母さんをつないでいた手が離れてしまい、一人になった田尻さん!水の勢いに体が持っていられそうだったところを、電柱の支線につかまることができ、下流に流されずにすんだそうです。その時のことを田尻さんは、「濁流に流され、お母さん助けて〜と必死に叫びました。その母の必死な形相と雨の降りしきる状況は今でも忘れません。怖かった。」と話されました。お母さんとまた手をつなぐことができた田尻さん親子は、道路が川のようになっていて前に進むことができなくなっていたところを近所の方に助けられ、翌日の朝を迎えたそうです。雨がおさまってから自宅を見に行くと、ほとんどの家が流され自分の家と合わせて3軒ほどしか残っていなかったこと、そして大江小の友達が21人亡くなったこともショックだったと、体験を話していただきました。そして、田尻さんは力説されました。自分たち親子は逃げ遅れの段階で避難した結果、大変危険な目にあった…人間は自然の災害には絶対に勝てません!今まで大丈夫だったからと油断するのではなく、情報を確認して早く避難することが大切です。災害発生の際には、どこに、いつ、だれと避難するのかを事前に話しておく、避難する時に必要なものや懐中電灯などをすぐに持ち出せるように準備しておくようにしてほしい…。最後に、子どもたちと声を合わせて言われた言葉は、「自然災害からは早く逃げるが勝ち!」でした。

